

公益社団法人米沢有為会
興譲館寄宿舍OB会
通信 第4号(2018.9)

編集・発行
 公益社団法人米沢有為会興譲館寄宿舍OB会
 〒182-0004 東京都調布市入間町1-36
 東京興譲館内
 連絡先 nkanno@wonder.ocn.ne.jp
 会員名に続く()内は、寄宿舍名と入舎年

平成30年度総会

平成30年10月20日(土)

14時から、米沢で開催

置賜の寄宿舍OB多数のご参加を!

平成30年度の興譲館寄宿舍OB会総会を10月20日(土)郷土・米沢で開催致します。米沢有為会は来年初創設130周年の節目の年を迎えます。郷土3市5町には多数の寄宿舍OBがお住まいで活躍されておられます。学生時代に一つの釜の飯を共にして寄宿舍で青春を過ごしてから幾星霜。お互いの親睦を図りたく開催いたします。

当日の夕刻には、仙台興譲館OBの集いが福島・穴原温泉で開催(16時米沢出発)されますので、総会の開始を14時にいたしました。総会が済んで仙台組をお見送りした後、名物芋煮を楽しみながらの懇親会を計画しております。ぜひ多数のご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

興譲館寄宿舍は1909(明治42)年から東京、1914(大正3)年から仙台、1930-88(昭和5-63)年に札幌、1955-62(昭和30-37)年に山形と順次設置され、来年初創設110周年を迎えます。その長い歴史の結果、約2100名の若き舎生が社会にはばたきました。現在は東京と仙台的2寄宿舍で定員37名の学生諸君が勉学に励んでおります。

長い歴史の中、東京興譲館は初代吉田熊次館長から始まり現在第21代の川合勝雄(東41)館長、仙台興譲館は初代宮島昇館長から始まり現在第16代滝口政

彦(仙40)館長にバトンが引き継がれています。

OB会の目的である「会員相互の親睦を図り、興譲館寄宿舍との関係を密にすると共に、米沢有為会及び興譲館寄宿舍の発展に寄与すること」を基本に今後も進んでいきたいと思っております。

幹事長 菅野 憲幸(東42)

寄宿舍OB会員居住地内訳

住所判明の寄宿舍OB会員603名のお住いの地域を一覧表にしました。今秋に、寄宿舍OB会と米沢有為会本部が協力して、米沢有為会に未入会の方々に、米沢有為会入会のご案内をお届けする予定です。

居住地域	人数	入会	未入会
首都圏 (東京・埼玉・千葉・神奈川)	184	67	117
置賜地区 (米沢・長井・南陽・5町)	246	66	180
山形県内 (山形市他、置賜地区以外)	55	12	43
東北・北海道地区 (宮城・岩手・福島・北海道)	66	35	31
北関東地区 (栃木・茨木・群馬)	15	4	11
中部地区 (愛知・静岡・新潟・北陸)	19	2	17
関西・九州地区 (大阪・京都・兵庫・福岡等)	18	6	12
合計	603	192	411
米沢有為会入会率		32%	68%

「入会」=米沢有為会会員 「未入会」=同未入会

米沢有為会 来年初創設130周年

公益社団法人米沢有為会は、今春に「創設130周年活動ビジョン」を公表し、「未来をにやう置賜若人の夢を育英活動で支援」及び「置賜の教育・文化・産業等の振興に貢献」の活動目標を掲げて、取り組んでいます。詳細は、米沢有為会ホームページでどうぞ!

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>

興譲館寄宿舍OB会総会

10月20日(土) 14時~18時

会場: 東京第一ホテル米沢

- ★ご参加をお待ちしております。
- ★返信ハガキに、**近況**をお書きください。
- ★お差し支えなければ、この『通信』誌上でご紹介させていただきます(次号は来春1月刊)。

平成29年度運営協力金納入者芳名 (敬称略)

ご協力をありがとうございます

◆東京興讓館 OB◆			
入舎年	氏名	入舎年	氏名
昭20	藤田 浩一郎	昭40	中條 良文
"	小森 力雄	昭41	川合 勝雄
昭21	藤田 士郎	"	山田 幸生
昭25	高橋 俊龍	"	篠宮 雅夫
昭29	遠藤 道雄	"	渡部 昭
"	大石 道夫	昭42	菅野 憲幸
昭30	菅原 文雄	"	寒河江 幸平
昭31	飯沼 俊男	"	庄司 芳彦
"	小関 薫	"	兵庫 等
"	藤田 智次郎	"	藤谷 佑三
昭32	寒河江 晃	"	本多 和彦
昭33	石原 俊一	"	宮坂 孝夫
"	鈴木 良平	昭43	川越 治
昭34	勝見 正弘	"	小島 和雄
"	佐藤 孝夫	"	武田 篤
"	羽隅 弘宣	"	福崎 進
昭35	赤井 淳一	"	伊藤 秀太郎
"	中村 紘一	昭44	佐藤 憲一
昭36	井熊 征一	"	戸田 直博
"	後藤 芳雄	昭45	鈴木 信幸
"	宮森 茂	昭46	鈴木 浩美
"	村山 晃也	昭47	小野 庄士
"	佐藤 毅	"	仁科 義英
昭37	小野 仁	昭48	安部 三十郎
"	上村 正和	昭49	木村 弘信
"	小島 邦浩	"	佐藤 久夫
"	高瀬 勝	昭51	市川 長文
"	樋口 正宏	"	宮坂 敬章
昭38	佐藤 陸三	昭53	岩瀬 行弘
"	手塚 修	昭59	小関 敦
"	中島 正臣	昭60	木村 栄司
"	舟山 国夫	"	多田 利幸
昭39	伊藤 秀靖	平1	小関 治
"	大滝 則忠	平2	小島 伸一
"	加藤 国雄	平7	眞島 秀和
昭40	塚田 昌伸	平22	山下 智昭
◆仙台興讓館 OB◆			
入舎年	氏名	入舎年	氏名
昭20	西村 純	昭25	中條 仁
昭25	下條 泰生	昭26	宮崎 鉄蔵

入舎年	氏名	入舎年	氏名
昭26	本田 健夫	昭40	安部 孝二
昭27	村上 秀利	"	伊藤 和夫
昭28	板垣 義次	"	片倉 俊彦
昭30	佐伯 和重	"	島津 博徳
"	本間 達三	昭41	神尾 仁
昭31	安部 壮一郎	昭42	我妻 敏
"	大関 修敬	"	遠藤 光広
"	今野 多助	"	笹木 邦明
"	小関 昌幸	昭44	南斉 敏夫
昭32	船山 完一	昭45	佐藤 憲一
昭33	我妻 光吉	"	青木 隆生
"	塚原 保夫	"	伊藤 英三
昭34	加藤 正一郎	昭46	遠藤 嘉一
昭35	中村 精三	"	向田 吉広
昭36	高田 和壽	昭53	半田 和彦
"	千喜良 誠	昭56	広瀬 純
昭37	斎藤 彰	昭57	青柳 哲郎
"	甲 國信	昭58	佐藤 一彦
昭38	遠藤 秀樹	平3	赤木 修
"	平吹 隆一	平6	鈴木 学
昭39	松本 耕輔		
◆札幌興讓館 OB◆			
入舎年	氏名	入舎年	氏名
昭28	山口 尚	昭40	上野 和子
昭31	三原 信義	昭41	船山 隆寿
昭34	須藤 進	昭48	遠藤 一栄
"	沼 武良	昭50	川崎 史郎
昭35	加藤 公清	昭52	岡崎 修三
昭38	古澤 友宣	昭54	高橋 健太郎
昭39	須藤 誠一		
◆山形興讓館 OB◆		入舎年	氏名
		昭34	高橋 栄二

運営協力金 よろしくお願ひします

多くの会員各位から、運営協力金 **年2千円**のご協力をいただき、誠にありがとうございます。これは、舎生歓送迎会祝金、OB会通信、総会案内等印刷通信費などに支出しています。

来年は寄宿舎創設110周年!

記念となる取組も計画中です。

今後ともよろしくお願ひいたします。

振込み先：郵便振込み口座 00110-6-725587

興讓館寄宿舎OB会

興譲館寮(東京・仙台)

平成31年度 寮生を募集中

お知り合い方をお誘いください。

個室、朝夕2食付

東京興譲館 寮費(月額) 48,000円～
募集人員 6名程度(男子のみ)

仙台興譲館 寮費(月額) 42,000円～
募集人員 4名程度(男子のみ)

詳細は 米沢有為会ホームページで

奨学生(月額4万円貸与)も募集中!

日々随感

就職の思い出

石原 俊一(東33)

私は、本年7月22日に79歳になりました。昭和33年に、新大久保の寄宿舍にお世話になりました。60年前です。2年毎の面接により4年間、本当にありがとうございました。初めての大会東京での、現実の人生がスタートしました。思い出は、宇佐美会長さんから、就活のご指導をいただきました。そのお陰で、トラストバンクに入社して定年まで頑張ることが出来ました。22回の人事異動により、全国の多才な方々との、交流にもなりました。その間、秋田での22針も縫う交通事故なども経験しました。現在は、傘寿を迎えて地域の自治会長など、他のボランティアなどで何とか元気です。寄宿舍現役諸君には、いろいろと体験して、夢を実現して欲しいものです。

[市川市在住]

盛夏に思う

佐藤 毅(東36)

今年の夏の暑さはさすがにこたえました。寮にお世話になった昭和30年代は、冷房設備などありませんので、うちわで扇ぐか我慢するだけで、夏休みに早く米沢に帰りたいと思ったものです。現在は、長年取り組んできました寄宿舍OB会や米沢有為会の役職から解放され、気ままに過ごすことが出来、ありがたく感謝しております。お陰様で、自由な時間も多くなりましたので、サークルに入り指導を受けながら、未熟ながら油絵制作に取り組んでおります。絵の世界も広大で、樹海に迷い込んだように、試行錯誤を繰り返しており、手応えのある作品はなかなかできません。

ん。多分、一生出来ないのかもしれませんが。

さて、来年は米沢有為会創立130周年、興譲館寄宿舍開設110周年の大きな節目を迎え、記念事業の準備でお忙しいことと拝察いたしますが、両会の会長である大滝さんを中心に、OB会が一致団結し、今こそ底力を発揮する時と思います。力を合わせましょう。 [八千代市在住]

トキメキ考

樋口 正弘(東37)

同期の集まりなどでは特に、この頃月日の経つのが速く感じる、などの声を聞くことが多くなった。この現象を「ジャンネーの法則」や「体内時計の仕組み」を使って解説している記事に出会ったりはしたが、その説明だけでは納得し切れなかった。そんな折、NHKのテレビで「大人になるとあつという間に1年が過ぎるのはなぜ?」という質問に「それはトキメキがなくなったから」と答えたバラエティー番組を見ていて、アッこれだと思った。想えば、昭和37年に上京し西大久保の寮で過ごした4年間の学生生活は、まさにトキメキの連続だった。トキメキの最大要因は「人」と思う。寮は個室ではなかったから、目が醒めて学校に行き帰って眠るまで、人と接しないで過ごす時は一時もなかった。無自覚であれ、脳のどこかは常時トキメキ状態だったのだろう。トキメキの効用を知り、1年があつという間に過ぎないようにするためのヒントを得たと思った。 [千葉市在住]

佐倉の『歴博』へぜひどうぞ

佐藤 陸三(東38)

千葉県佐倉市に住み始めて早いもので45年です。その間、関西勤務の時期がありましたが、米沢で育った2倍半の期間をこちらで過ごしたことになります。第二の故郷「佐倉」でぜひご紹介したいのが『国立歴史民俗博物館』(歴博)です。国立の施設としては最初の歴史博物館で、昭和58年3月佐倉市の佐倉城址の一角に完成しました。「先史・古代」「中世」「近世」「民俗」「近代」「現代」の6つの展示室があり、年3回ほど「企画展示」を開催しています。昨年秋に展示された企画展示『1968年—無数の問いの噴出の時代』は、「全共闘運動の展開」「ベトナム反戦とベ平連運動」「三里塚闘争」「熊本水俣病闘争」などにスポットを当てた、国立らしからぬ企画で見応えがありました。私は昨年、自主学習会の「日本の民俗を訪ねる」グループに参加し楽しんでます。東京駅からの高速バスの便もありますので、ぜひお越しください。

[佐倉市在住]

北海道周遊

島津 博徳 (仙40)

小生、今年で71歳ですがどうも節目の年に災難が降り掛かるようで、60歳で食堂癌、今年4月には前立腺癌が見つかり、現在はホルモン療法中の身です。気持ちが萎えてきそうな気分だったので、気晴らしを兼ねて今まで一度も行ったことのない北海道へバスツアーで6月に行きまして。写真やテレビで北海道はどのような処か分かってはいましたが、あくまでも視覚だけの理解で、その土地の臭い、音、気温、味などは矢張り現地に行ってみなければ分からないものだという事を改めて認識した旅でした。視覚でも目の前に広がる景色は、テレビや写真の感じとは別物で、周囲の音や外気の皮膚感覚と合わせて観ると、ありきたりの言葉になります。矢張り北海道は本州と違い雄大で、例えば開陽台から360度遠くまで見渡せるのは正にこれぞ北海道という眺望で、ヨーロッパの何処までも続く大平原を彷彿とさせるものがありました。一方で街に眼を向けると、何処も空き地、空き家が目立ち往来する人も少なく、活気が感じられません。観光地の北海道ですが、千歳空港から近い登別温泉には中国、韓国の観光客が押し寄せ賑やかだが、泉質が抜群でも交通の不便な川湯温泉は彼方此方に廃業したホテルが散見され、最北端の稚内の列車本数がわずかに日7本しかない状況を見ると北海道の今後の厳しさを思わせるものがありました。 [松戸市在住]

近況報告

戸田 直博 (東44)

市役所を定年退職し、第2の職場で5年間勤務し3年前退職したが、退職直後、直腸癌で入院し、現在経過観察で通院している。昨年、7年間介護をしていた母を亡くし、現在は妻と2人暮らし。3人の息子がいるが結婚して長男は仙台、二男は隣に家を新築、三男は市内に家を購入して住んでいる。孫は4人で二男に小3と4歳の女の子、三男に4歳の女の子と2歳の男の子。孫は本当に可愛い、共稼ぎの息子達を応援したい等の思いで、保育園の送迎や小学校の帰宅、夕食の作り届等、孫達から元気をもらいながら妻と2人で頑張っている。念願だった夫婦での北海道旅行が昨秋実現し、足腰の丈夫なうちにと今年5月は富士山に行き、8月は草津・万座・奥飛騨方面、秋には京都旅行を予定。日常生活は、孫の世話の他、庭の管理、家庭菜園、通院等で忙しい毎日ですが、これからも健康に留意し何事にも感謝を忘れず一日一日楽しく過ごしたいと思っている。 [米沢市在住]

仙台興譲館寮の思い出

向田 吉広 (仙台46)

昭和46年4月、東北大学入学と同時に興譲館寮にお世話になりました。当時は入学直後からいわゆる「学費闘争」(授業料月千円から三千円になることへの反対運動)が始まり、授業をボイコットし寮で過ごす時間が多くなりました。寮には本を読む文化が根付いていたように思います。寮生はみな貧乏。それでも「心は錦」で、本には金を惜しまず、話題の本が出ると徹夜で競うように読んだものでした。ほとんど授業をサボった私が学生時代に学んだ最良のものだったと思っています。今私は、東北経済連合会で「次世代放射光施設」という研究施設を東北大学青葉山キャンパスに設置する計画に取り組んでいます。これはナノレベルで物を見ることが出来る大型の顕微鏡のようなもの。実現すれば、仙台が世界最先端の物づくりの拠点となり、東北が戌申の役150年にしようやく自立できるものと期待しています。

[仙台市在住]

サクラマスのように

小野 庄士 (東47)

故郷の人手不足は益々深刻なものになりつつあります。このままでは「未来の年表」を見るまでもなく、社会が崩壊してしまいます。消滅する自治体になってしまいます。教育に携わってきた者の一人として、何が足りなかったのだろうかと思ひたる思いで一杯です。山形県が制定した「県の魚」はサクラマスです。サクラマスは、溪流の女王ヤマメの降海型です。幼魚の時は区別が付きませんが、10cm~15cmに成長した頃銀化(ぎんけ)となり、海に下ります。そして降海後1年で成熟し生まれた川に帰り、子孫を残すのです。我々のヒトDNAの解明が進んでいると言われます。その中にサクラマスが生まれた川に帰ってくるような本能をつかさどるDNAがあるとすれば、それを活性化させるスイッチを探さなければなりません。それは一人ひとり異なり、例えば村祭りであり、お盆のような仏事であるような気がします。あなたのスイッチは何でしょうか。教えてください。

[米沢市在住]

**** 原稿募集! ****

電話 03-3727-5990 幹事長 菅野憲幸(東42)

Eメール nkanno@wonder.ocn.ne.jp

この『通信』は、米沢有為会ホームページで閲覧できます

<http://www.yonezawa-yuukai.org/>

トップページ>「育英・文化事業」>「興譲館寄宿舍OB会」